早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	（　田中穂乃香　）
所属・資格（※学生の場合は課程・学年を記載）	早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2021 年　8 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本カウンセリング学会第 53 回大会
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	田中穂乃香・山本菜々子・桂川泰典
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	虐待を含む親の養育態度が子どものメンタライジング能力に与える影響

発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。）

【問題と目的】メンタライジングとは，自分と他者の行動の背後にある心理状態（考え，感情，欲求など）に注意を向け，それを認識することである(Allen, 2013 上地・神谷訳 2017)。メンタライジングは養育者との愛着を基盤に発達するが，虐待などの愛着外傷を受けると愛着トラウマを引き起こし，メンタライジング不全に陥る。しかし，メンタライジング能力を尺度を用いて測定し，虐待的な養育やその他の養育態度との関連を検討している先行研究は少ないため，本研究では親の養育態度が子どものメンタライジングに与える影響について検討することを目的とした。

【方法】調査対象：首都圏に在学する大学生 190 名（男子 65 名，女子 125 名，平均年齢 20.85 歳，$SD = 1.63$）を対象とした。調査材料：(a)日本語版虐待的養育環境尺度（Child Abuse and Trauma Scale: Sanders & Giolas, 1991; Sanders & Becker-Lausen, 1995 田辺訳 1996，2005）（以下，CATS）「性的虐待」因子を除く 26 項目について，本研究では 16 歳までの親（もしくは主な養育者）の養育を想起して回答を求めた。(b)日本語版メンタライゼーション尺度（The Mentalization Scale: Dimitrijević, Hanak, Dimitrijević, & Marjanović, 2018 松葉他 訳 2019）（以下，J-MentS）(c)日本語版養育態度尺度（Parental Bonding Instrument: Paker,G., Tupling, H., & Brown, L. B, 1979 小林訳 1991）（以下，PBI）

【結果と考察】

1. 親の虐待的養育態度と子どものメンタライジング能力

CATS 尺度得点を全分析対象者の平均値により高低群に分け，独立変数を CATS 高低群，従属変数を J-MentS 尺度得点として t 検定を行った結果，高群の方がメンタライジング能力は有意に低かった（$t(188) = 3.77, p < .01$ ）。この結果から，メンタライジングは親との愛着を基盤に発達することを考慮すると，虐待的養育は愛着トラウマを負わせ，メンタライジングの発達を妨げる，または既存の能力を低下させると考えられる。

2. 虐待を含まない親の養育態度と子どものメンタライジング能力

PBI 尺度の「養護」「過保護」の 2 つの因子をそれぞれ全分析対象者の平均値で高低群に分け，従属変数を J-MentS 尺度得点，独立変数を因子別高低群として t 検定を行った結果，「養護」因子において

有意差が見られ（ $t(188) = 2.99, p < .01$ ），養護的な親の養育態度は子どものメンタライジング能力を促進することがわかった。「過保護」因子については有意差は見られなかったが，J-MentS 尺度の因子別に相関関係を検討すると，「自己に対するメンタライジング」と中程度の相関が見られた（ $r = .30$, $p < .01$ ）。これらの結果から，メンタライジングの発達には，養護的な養育に含まれると考えられる双方向の情緒的コミュニケーションやミラリング，共同注意などを基盤とした安定した愛着が必要であると示唆される。また，過保護的な養育は，子ども自身の感情や行動について考える機会が減ると考えられるため，自己に対するメンタライジング能力の発達が妨げられると推測できる。

※無断転載禁止